開学 30 周年記念展「ここに新しい風景を、」報道関係者向け内覧会を 9/2（金）に開催

東北芸術工科大学（山形市／学長　中山ダイスケ）は、今年、創立 30 周年を迎えました。これを記念して、30 年の教育、地域活動の中で生まれ、育まれた人（卒業生・修了生）や地域社会貢献に関わる各種プロジェクトを紹介する企画展「**ここに新しい風景を、**」を 2022 年 9 月 3 日（土）より本学内ギャラリーにて開催します。

開催に先立ち、報道関係者様向けの内覧会を 9 月 2 日（金）に行います。当日は本展覧会のキュレーションを担当する小金沢 智（芸術学部美術科日本画コース専任講師）が、展示内容・コンセプトについて解説します。

なお、内覧会は事前申込制となります。ご多用とは存じますが、ぜひご取材賜りますようお願い申し上げます。

◉報道関係者向け内覧会

開催日時：2022 年**9 月 2 日（金）13 時 30 分～14 時 15 分**
集合場所：東北芸術工科大学 本館 1 階正面エレベーター前
申込方法：別添の申込書をファックス、またはメールにて、入試広報課までお申し込みください。
　Fax: 023-627-2154　　Email: public@aga.tuad.ac.jp
申込締切：2022 年 8 月 31 日（水）17:00 まで

※内覧会終了後、別途ご案内しております「**みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ 2022 記者発表**」を引き続き行いますので、併せてご取材いただければ幸甚です。

◉開学 30 周年記念展「ここに新しい風景を、」について

1　企画展名称

東北芸術工科大学 開学 30 周年記念展「ここに新しい風景を、」

2　開催時期と時間

2022 年 9 月 3 日（土）～25 日（日）の木曜・金曜・土曜・日曜・祝日の 10：00～17：00
（ただし、祝日の 9 月 19 日は開館）

3　会場

東北芸術工科大学内　1 階ギャラリー「THE WALL」、7 階ギャラリー「THE TOP」

4　入場料

無料

5　協力

シュウゴアーツ

6　企画展キュレーション担当

小金沢　智 芸術学部美術科日本画コース専任講師

7　デザイン・アートディレクション担当

株式会社アカオニ［代表：小板橋基希（情報デザイン学科卒業)］

8　企画展概要

1）7 階ギャラリー「THE TOP」展示概要

「ここに新しい風景を、」を全体のコンセプトに、8 組の卒業生、ひとつのプロジェクト（チュートリアル）で展示を構成いたします。

［出品作家］

① アメフラシ〈村上滋郎［美術科洋画コース卒業。京都市立芸術大学大学院修士課程修了］、松崎綾子［美術科日本画コース卒業。大学院修士課程修了］、池田將友［生産デザイン学科（現・プロダクトデザイン学科）卒業］、金東玉［グラフィックデザイン学科卒業］〉

② 飯泉祐樹（美術科彫刻コース卒業。芸術文化専攻彫刻領域修了）

③ F/style 五十嵐恵美、星野若菜［生産デザイン学科（現・プロダクトデザイン学科）卒業］

④ かんのさゆり［情報デザイン学科映像コース（現・映像学科）卒業］

⑤ 近藤亜樹（美術科洋画コース卒業。大学院実験芸術学科修了）

⑥ 近藤七彩（美術科工芸コース卒業。芸術文化専攻工芸研究領域修了）

⑦ 多田さやか（美術科日本画コース卒業。大学院日本画研究領域修了）

⑧ 西澤諭志［情報デザイン学科映像コース（現・映像学科）卒業］

⑨ 「東北画は可能か？」より 12 号作品を多数展示

以上、9 組（＊東北画は可能か？除き、デザイン工学部より 6 名、芸術学部より 6 名）

2）1 階ギャラリー「THE WALL」展示概要

「東北芸術工科大学開学 30 年の歴史」の年譜を中心に、大学の変遷を示す写真、元理事長・徳山詳直の言葉や、教職員・卒業生へのインタビュー映像を展示します。東北芸術工科大学校友会とともに制作を行いました。

［展示内容］

・「東北芸術工科大学開学 30 年の歴史」

・大学の変遷を示す写真（大学の公式写真）

・大学の変遷を示す学生視点のさまざまな写真（校友会からの呼びかけを通し、卒業生から寄せられた写真）

・徳山詳直の言葉「東北芸術工科大学設立の宣言」、『藝術立国』（幻冬舎、2012 年）などから抜粋

・教職員（現役・退職）の言葉

・教職員（退職）・卒業生へのインタビュー映像

◉開学 30 周年記念展 特設サイト

https://www.tuad.ac.jp/30anniv-exhibition/

◉東北芸工大 30 周年 特設 Web サイト

https://www.tuad.ac.jp/30anniversary/

「この敷地は全部畑と田んぼだった」―東北芸術工科大学元理事長の徳山詳直（1930-2014）は、著書『藝術立国』（幻冬舎、2012 年）で、現在本学が建つこの場所（山形県山形市上桜田）についてそう述べています。

2022 年 4 月に 30 周年を迎えた本学の歴史を振り返ると、開学の 1992 年 4 月の段階では、校舎は本館、図書館、学生会館が建つのみでした。その後、同年 9 月には芸術学部・デザイン工学部の実習棟と体育館、1995 年 5 月には新実習棟、1996 年 3 月には大学院棟（現：デザイン工学実習棟 C）、1996 年 10 月には石彫棟が竣工し、次第に大学としての設備が整っていきます。もともと、「畑と田んぼ」だった土地の風景が、大学をきっかけに「新しい風景」に移り変わっていったのです。

さて、徳山は、山形に大学を設立することの意義についてこのように述べています。すなわち、「現代文明の反省の上に立った大学とはなにか、新しい世紀に向けて、もはやいかんともしがたいところまできた人類の文明を、新しい世代のなかでどう活かすか。（中略）これは大学の第一義的使命だと思っております」（「東北芸術工科大学生い立ちの記」）と。ここでの「新しい世紀」「新しい世代」を、本学設立の 1990 年代＝20 世紀から見た 21 世紀にとどまらず、さらに先の未来へと向けられたメッセージと解釈・想像することができないでしょうか。芸術・デザインの大学を設立するということ、そして、芸術・デザインを学ぶということは、そのような長期的時間と視野が必要なのだ、と。

開学 30 周年を記念して、本学が校友会との共催で開催する本展「ここに新しい風景を、」は、本学 30 年の歴史を年譜・言葉・映像等で振り返るとともに、この「新しい風景」で学び、巣立った卒業生 8 組とひとつのプロジェクトによる展示を行うことで、これからの未来を展望する機会として二部構成で開催するものです。1992 年 4 月の開学以来、本学は、13,000 人近い卒業生を送り出してきました。30 年前、山形県にとって「新しい風景」であったこの大学で学んだ卒業生は、卒業後はそれぞれの生活する場所で、自らの「新しい風景」を作り出しているのではないでしょうか。タイトルに付けた読点には、この土地に抱かれ、この地域の人々によって育まれた東北芸術工科大学という「新しい風景」から、さらに新しいもの・ことが生まれていく、派生していくイメージを込めています。

もっとも、ある土地が「新しい風景」へと変化するのは、人為的開発だけが理由ではありません。2011 年 3 月 11 日の東日本大震災と福島第一原子力発電所事故は、自然災害と人為によって、風景が思いがけない形で一変してしまう可能性があることを、その脅威をもって私たちに知らしめました。あるいは、昨今のパンデミックも、私たちの日常風景を著しく変化させてやみません。

本展が、時代が大きく変動しているこの時代に、私たちの生きるそれぞれの土地―風景を見つめる機会にもなれば幸いです。皆さまのご来場をお待ちしています。（本展キュレーター：小金沢智）

開学 30 周年記念展「ここに新しい風景を、」報道関係者向け内覧会

取材申込書

FAX：023-627-2081

※8 月 31 日（水）17:00 までにご返信ください

参加・不参加

御社名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

代表者氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

携帯番号 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

メールアドレス ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿@＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

参加人数 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（人）

お問い合わせ：東北芸術工科大学 入試広報課　TEL: 023-627-2246　FAX: 023-627-2154
Email: public@aga.tuad.ac.jp